



核物質管理センター ニュース

NUCLEAR MATERIAL CONTROL CENTER NEWS

新しい年を迎えて

理事長 下村和生



エギュ・デュ・ミディ展望台からイタリア側アルプスを望む

新年、明けましておめでとうございます。

公益財団法人 核物質管理センターは、昭和47年（1972年）の設立以来、我が国の原子力平和利用並びに国際的な核不拡散体制の維持に、保障措置技術を基盤とした貢献をして参りました。

国際原子力機関（IAEA）は、毎年、加盟各国の保障措置の実施結果と結論を公表していますが、我が国は、包括的保障措置協定を締結し、追加議定書を発効させている国のひとつとし

目次

●新しい年を迎えて	1
●国際原子力機関（IAEA）保障措置シンポジウムへの参加報告（1）	4
●国際原子力機関（IAEA）の11月理事会に対する事務局長冒頭声明について	7
●国際原子力機関（IAEA）の11月理事会に対する日本政府からの声明	10
●NMCCのページ	12
●News Memo	14
●動静	16

動 静*

2019.3.4～8 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)
 2018.5.6～10 IAEA理事会/事業計画・予算委員会
 (オーストリア、ウィーン)
 2019.6.10～14 IAEA理事会 (オーストリア、ウィーン)
 2019.6.17～18 CTBT準備委員会第52会期 (オースト
 リア、ウィーン)
 2019.6.24～28 使用済燃料管理に関する国際会議 (オー

ストリア、ウィーン)
 2019.9.9～13 IAEA理事会
 2019.9.16～20 第63回IAEA総会
 2019.9.23 IAEA理事会
 2019.11.18～22 IAEA理事会
 2019.11.25～27 CTBT準備委員会第53会期 (オースト
 リア、ウィーン)

*ここに掲載している会合等は必ずしも全てが公開参加型とは限らないことをお断りします。また、2か月先までのスケジュールについて網かけ表示しています。



水戸街道約120kmも19番目の宿・長岡宿まで至ると水戸城はすぐそこ。千波湖の東側を進むと、街道はやがて備前堀に至ります。備前堀にかかる「たまげた橋」を渡ったところが水戸街道の終着点だそうです。街道としての水戸街道は、陸前浜街道と名前を変えてそのまま北に進み、東海村内を通過していきます。

一方、水戸街道の終着点を西に曲がっていく道の先にあるのが水戸城でしたが、残念ながら第二次大戦中に焼失し、往時を偲ぶことはできません。現在、水戸第一高等学校の一面に残る薬医門が水戸城の在りし日の姿を今に伝える唯一の遺構です。

水戸駅から300mほど東を流れる桜川はかつて千波湖に直接流入していましたが、那珂川の氾濫により土砂が堆積して河口が閉塞した結果、今日では千波湖は名残沼となりました。

『常陸国風土記』(713年編纂開始、721年成立)は当時の常陸国地方が豊かな土地であったことを伝えており、「常陸の国は広大な土地に恵まれ、地もはるか遠くまで見える。土壌は肥沃で、原野も広がり、これを耕している。山海の幸にも恵まれ、人々はこれを捕獲して、家々は満ち足りている。」の意の文章が綴られています。一方ではこの地域は水害に苦しめられてきた歴史も有しています。国土交通省の資料「水害と治水事業の沿革」によれば、那珂川の氾濫によってもたらされた「被害も計り知れ」ず、時代は大きく隔たった頃の記録ですが、1602年の洪水記録が最も古い記録として残されているそうです (www.mlit.go.jp/river/basic_infonaka-5-4からアクセスできます)。

水戸市のウェブサイトによれば、古代から海や川等の水の出入口は「みと」または「みなと」と呼ばれ、水戸の場合も那珂川と千波湖の間の大地の先端が「みと」と呼ばれたとのこと。水と密接な関係にある水戸は水による被害も少なくなかったようです。



備前堀



伊奈忠次象

(いずれも水戸観光コンベンション協会のウェブサイトより)

水害対策を講じたのが水戸徳川家。1610年、初代藩主・徳川頼房(1603～1661年)の時代に、伊奈備前守忠次(1550～1610年。後に武蔵国の小室藩主。)が命を受け用水堀を作りました。桜川と千波湖から水の通り道を作り洪水を防止するとともに、現在の大洗町に近い常澄地区の灌漑用水として利用させることにしたのです。今日、この用水路は伊奈忠次の官職名・備前守にちなんで備前堀と呼ばれています。

忠次は水戸藩士ではなく、関東代官頭の職にあった幕府の官吏でした。忠次とその息子である忠政(1585～1618年)・忠治(1592～1653年)兄弟らの偉業には瞠目させられます。忠次は、1604年には埼玉県北部を流れる備前渠用水の工事でも陣頭指揮をとりました。また、父と兄弟(兄の没後に弟が継承)は、荒川を利根川から分断するという荒川の瀬替(西遷とも言われます)、東京湾に注いでいた利根川の河口を銚子に変更する利根川の東遷等の大事業を行いました。江戸の町に浄水をもたらした玉川上水も忠治の監督下で玉川兄弟により施工されたものです。

水戸と江戸を結ぶ水戸街道を辿った先に、関東全域を網羅するような伊奈父子による大事業の足跡が見えてきました。往時の技術水準の高さに頭が下がります。

本年もご愛読下さいますようお願いいたします。
 (企)